

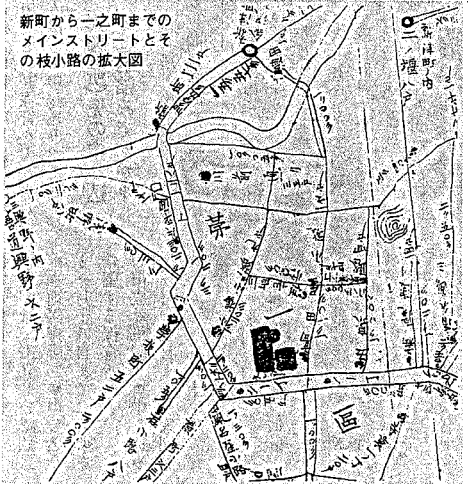
市史編さんの窓

(31)

越後国中蒲原郡新津郵便区 市内外集配巡路明細図

左の絵図は、「越後国中蒲原郡新津郵便区市内外集配巡路明細図」といい、その作製は、文書整理表示

越後国中蒲原郡新津郵便区市内外集配巡路明細図



新町から一之町までのメインストリートとその枝小路の拡大図

絵図には、町村の大字、小字ごとに戸数が記入され、そこに連する道程と距離を明記したうえ、第一区から四区に分けられた集配線を、新津町字二ノ丁ヨリ中沢、新町、上山谷ヲ経テ滯局巷里三十四町五十五間(第一区)というように、集約

記載しています。特に綿密な図示がされている宿(場)町新津にスポットを当ててみると、メインストリートは、歌に歌われる新町から一之丁にかけてで、明治中期には次のような枝小路によって支えられていることがわかります。すなわち、大橋西詰から西南へ、①浅野八戸 ②川南通三十三戸 ③学校町五十二戸 ④小揚小路九戸 ⑤住吉町十二戸 ⑥東裏町四十七戸 ⑦高田屋小路十六戸 ⑧周保小路五戸 ⑨五泉小路四戸 ⑩病院通十戸 ⑪清水通三戸 ⑫寺浦一丁二十戸 ⑬二丁

裏二十一戸 ⑭横町六十三戸 ⑮風呂屋小路四戸 ⑯西裏横町二十四戸 ⑰田浦小路四戸、そして番外といった形で桂小路(無戸)があり、以上の戸数を合わせると三百三十九戸になります。絵図の説明の中に「市内新津町字廿七ヶ戸数九百五十四戸、市内函場数ヶ所」とありますが、さきの三百三十九を引くと、六百余戸となり、その大半が新町から一之丁に及ぶ町並を形づくっています。

新津村誌(皇国地誌)によると、新町から一之丁までの道(街)幅は、明治九年の調査で三間三尺。その後明治三十年十二月の資料では「全真道通幅(間半)内両側へ(旧慣により)附庇シラ設ケ」てあります。しかし、明治十三年七月に五百余戸を焼いたという権次郎火事の後に、町幅が拡げられた形跡はなく、地図に描かれた新津中央は、旧形に復したうえに、いささかの発展をみせた姿と思われます。

標題の長い名の絵図は、当時の町や村のことをいろいろと考えさせてくれる興味深い資料といえます。

お買物、ご用命は市内で

「黒電話時代」から「インテリア電話時代」へ

お部屋に合わせたカラー電話

月額使用料50円

※キャンペーン期間(1月～2月)中は工事派遣料1,000円を割引き2,000円の工事料となります。

電話のことは電話局へ

●卓上タイプ
お部屋を明るくするカラフルな電話機です。4つの色の中からお好きなものを選べます。ベルの音量も調節できます。

●かべかけタイプ
お台所や店先などにぴったりの、場所をとらないかべかけ形です。薄型でスマートデザイン。音量、音質とも3段階に調節できます。

新津電報電話局 お申し込み・ご相談は ☎ 4-1000